

令和元年度 学校運営評価結果

* 5段階で評価

令和2年3月

| 評価項目 | | 平均値 | カテゴリー別平均値 | 評価の理由 | カテゴリーまとめ |
|-----------|---|-----|-----------|--|--|
| I 学校運営 | 1 学校のビジョンおよびそれを実現するための中期目標と単年度目標を策定しており、かつ、教職員に理解され、教職員の提案を活かしているか | 4.1 | 4.1 | BSC、年度重点目標に反映し策定している。教職員への理解を深めている。 | 学校運営は教育目標の到達に向けて機能している。今後は本学院の特色を教育活動により反映できるように進めていく。 |
| | 2 目標に対する評価を年度内に実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか | 4.2 | | BSCの数値目標に反映し評価につなげている。BSCを学生指導にも活かしている。 | |
| | 3 学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、改善計画を策定しているか | 4.1 | | 学校運営評価は年2回全教職員全員で実施し改善に活用している。 | |
| | 4 特色ある学校づくりを進めるために、教育内容の充実に向けている | 3.9 | | もっと特色を打ち出せると良い。小児・母性・在宅実習の環境が整っていることは大きな特色である。ボランティア活動を通じた地域とのつながりの濃さなどをもっとアピールしていく。 | |
| | 5 学校運営委員会が、学校運営に関する議論の場として機能しているか | 4.3 | | 年2回定期開催し学校運営会議との報連相の強化に努めている。学院の運用に関する様々な内容を検討できる場になっている。 | |
| | 6 教務会が学年および各看護学の目標達成や年間指導計画実施の場として機能しているか | 4.1 | | 教務会は週1回開催し議題も計画的に立案している。効率よく進めるため、議題の取り上げ方、事前資料の配布、各自意見をまとめておくなど、会議運用の工夫が必要である。 | |

| | 評価項目 | 平均値 | カテゴリー別平均値 | 評価の理由 | カテゴリーまとめ | |
|--------------|------------------------------|---|--|-------|--|--|
| II 教育課程・教育活動 | 7 | 教育目標に、養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか | 4.1 | 4.0 | 「臨地実習における技術到達確認」はBSCに取り上げ、昨年より到達できる環境を整えてきたが目標値まで上がらなかった。今後も取り組みを強化していく。社会人基礎力などの自己評価はしているが分析まではできていない。システム化を図る。 | 学生の知識の習得へ向けて、毎年度体制や環境を整えている。今後も現状や課題に合わせて学生の学びやすい環境を整えていく。 |
| | 8 | 教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性がある内容になっているか | 4.1 | | 到達目標の評価や授業アンケート結果などをふまえ毎年見直しをしている。どんな学生を育てたいのか意識し一貫性を持ち関わっている。 | |
| | 9 | 定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正しているか | 4.1 | | 定期的な検討を実施し内容を一致させている。今年度は卒業生のカリキュラム評価なども実施し新カリキュラム改正へ向けて検討することができた。 | |
| | 10 | シラバスは、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか | 3.9 | | 学生・講師・教員が活用しやすいシラバスをめざし毎年見直し修正している。なぜその科目を学ぶのか、事前学習や参考文献の記載など学習に活用できるシラバスをめざし改善していく。 | |
| | 11 | 授業の一貫性を確保するために、1教科の担当者数を最小限にするとともに、担当者間の連携がとれているか | 3.7 | | 講師派遣の都合で、専門基礎科目の一部が1科目の担当者数を最小限にすることが困難であった。学生の負担軽減に向け今後も協力が得られるよう各所へ働きかけていくとともにシラバスを充実させ講師間の連携を図りやすいよう整えていく。 | |
| | 12 | 効果的な授業運営を図るため、教材の準備・整理のため時間割を調整しているか | 3.6 | | 試験が細かく分散して実施されており、学生への負担が懸念される。講師確保は難しい問題であるが学びの質を高められるよう新任講師の確保に努力していく。教員の授業準備の時間が確保できない。時間割の調整などにより講義しやすいよう整えていく。 | |
| | 13 | 授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか | 3.9 | | 教員間授業評価、教員養成講習会の授業見学、院外の授業研究会参加等、授業改善を図るための授業研究をしている。学校説明会の模擬授業案、出前講座の指導案など対象のレベルに合わせた指導案作りに取り組んでいる。 | |
| | 14 | 未修了科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか | 3.9 | | 単位未修得や再実習の学生に対し、担当教員が面談後、振り返りや原因分析をしている。学年留め置き学生については個別に対応している。 | |
| | 15 | 実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っているか | 3.9 | | 母体病院での実習では成人期、終末期の患者に関わりを持つことが困難な状況が見られる。実習目標を達成するために指導者の関わり方など連携を強化していく。 | |
| | 16 | 学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか | 4.3 | | 教育要綱・実習要項に評価基準を明記し学生に周知している。学年留め置き学生には個別に対応している。 | |
| | 17 | 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施しているか | 4.5 | | 各看護学の講義や看護倫理に関する教育をゼミで実施し強化を図っている。実習等では説明書・同意書を用い、実施時は同意を得ている。 | |
| | 18 | 実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか | 4.2 | | 12月まで300件以上の報告があり、分析後学内指導や臨床指導者会において再発防止の視点で改善策を講じている。リスク感性や倫理観を養うために自らタイムリーに情報共有や報告書の提出ができるよう今後も指導していく。 | |
| | 19 | 実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか | 4.0 | | 母体病院においては臨床指導者会を定期開催し教員と指導者の連携を図っている。指導者数は確保されており、経験が浅く実習指導者研修未受講者には、学院の教育方針、指導方針を理解してもらえるよう指導者と教員の連携を図り学生の学習効果を高めるために丁寧な説明を心がけていく。また、研修会などの企画も検討する。 | |
| 20 | 学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか | 4.2 | 授業アンケートの結果は教員・講師・臨地実習指導者へ伝え授業改善に努めている。今後は自分の発言に責任を持ったうえで学習者の権利を主張するよう記名式のアンケートに変更する。 | | | |
| 21 | 学生指導において、学生に対して人権への配慮がなされている | 4.1 | ハラスメント予防のガイドラインを作成、学生にも提示し指導に当たっている。学生満足度調査でも高評価であり特に問題はないと考える。 | | | |

| | 評価項目 | 平均値 | カテゴリー別平均値 | 評価の理由 | カテゴリーまとめ |
|----------------|---|-----|-----------|--|---|
| III 入学・卒業対策 | 22 より多くの応募者を確保することに努めているか | 3.8 | 3.9 | 今年度はマンパワー不足により、受験生の出身校を中心に学校訪問を行い、進路ガイダンス・出前講座等は回数を減らしたが学校説明会は例年通り行った。受験応募数は年々減少しているが定員の1割弱減の新入生を確保できた。今後も本学院の良さをPRできる機会を大切にしていきたい。受験生へ働きかける方法としてHP改善の予算確保ができていない。近隣他校との差は歴然だが従来の方で今後も募集活動を継続していく。 | 受験生には近隣校と比較し本学院に魅力を感じてもらえるよう働きかける必要がある。受験生に魅力のあるHP作成を進めたい。卒業生には看護師に必要な知識・技術・態度を修得させ県内で活躍できる人材になるよう育成していく。 |
| | 23 国家試験対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教員一丸となって取り組んでいるか | 3.9 | | 3年生の成績低迷者および既卒の不合格者には担当教員を割り当て、学習状況の確認を行っている。学習の取り組みや指導方法に関する教員間の情報共有と、低学年への働きかけを強化し取り組んでいる。国試対策に関しては3年間の模擬試験予定をシステム化し低学年からの学力向上に努める。 | |
| | 24 卒業生の近隣への就職率を高めるよう努めているか | 4.1 | | 構成市町村病院説明会、母体病院の就職説明会、キャリア支援を通じた県内就職への促しを図った。今年度の卒業生の進路は、進学が約10%、就職が約90%であり、就職者の県内就職率は84.6%、県内就職者の母体病院就職率は46%であり、母体病院の求人は満たしている。今後も引き続き県内への就職を促していく。 | |
| IV 学生生活への支援 | 25 学生の心身面での健康管理体制が整っているか | 4.2 | 4.1 | 必要な予防接種は入学前から働きかけ、インフルエンザも期日を決め接種を促している。健診で異常が見られた時は受診を勧めているが再診率が低いので働きかけを強化する。1年生にはカウンセラーによる全員面談を行っており他の学年での利用も増えてきた。引き続き活用を呼びかけたい。 | 健診の再診率が低く健康管理体制は対策が必要である。キャリア支援のシステム化が図れているので、今後は卒業生の課題をふまえたプログラムにしていく。 |
| | 26 学生生活、進学、就職に関して学生の相談に充分応じているか | 4.2 | | キャリア支援プログラムが定着し担当教員が対応している。外部業者などの講習も取り入れ、時期の早まった就活に対応できるようになった。学生の個別指導は丁寧に実施している。病院選びのミスマッチを減らし1回の就職試験で内定が取れるよう指導していく。母体病院への就職率46%であり、産科病棟の見学会、ガイダンス実施などを行いながら今後も看護部と協力しながら良い人材の確保に向けて働きかけていく。 | |
| | 27 前年度の卒業生の就職先での評価を把握し、問題点を明確にしているとともに、その対策を講じているか | 4.1 | | 卒業生の来院時や就職先からの求人訪問時など、それぞれの立場から情報収集できている。勤務状況の把握はできており(夜勤導入の延期、独り立ちの遅延、休職など)、把握した問題を教員で共有し実習指導等に活かしている。今後、休職者や離職者の防止を図るため、在学中に何を強化すべきか検討したい。 | |
| V 管理運営・財政 | 28 予算計画、年間授業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか | 4.3 | 4.2 | 母体病院と連携し、収支計画に基づき適正に執行・管理を行っている。また経費節減を心がけている。今後、校舎設備の老朽化に伴う修繕費、新カリでのICT教育導入に向けた設備投資、学生確保に向けたHP運用などの広告費、など専修学校としての存続に関わる予算確保が大きな課題である。必要性を理解してもらい確実に予算化できるよう病院総務課と連携を図りながら行っていく。 | 予算は適正に管理執行されている。事故や災害も多様化しており学生の安全を確保するため、新しい情報を得ながら危機管理を高めている。 |
| | 29 学生・非常勤講師や教職員の個人情報の保護について、考慮しているか | 4.4 | | 個人情報保護に関しては文書化し、低学年から指導を行っている。実習開始時など強化する時期も決め事故予防に努めている。 | |
| | 30 災害など非常時の危機管理体制が整っているか | 4.4 | | 防災マニュアルを作成し、年2回の防災訓練を実施している。備蓄品の自己点検、毎日見回り時に防災自己点検などを実施している。今後は母体病院での避難訓練への参加なども前向きに検討する。10月の台風被害の経験から学生への緊急連絡通信網の改善を早急に行いたい。 | |
| | 31 学校運営などに学生の意見が反映されているか | 3.7 | | 「学院生活に関する調査」の平均は例年並みであり、学生の意見箱への投書数は少なかったが不満の記載には丁寧に対応していく。 | |

| | 評価項目 | 平均値 | カテゴリー別平均値 | 評価の理由 | カテゴリーまとめ |
|--------------|--|-----|-----------|--|--|
| VI 施設設備 | 32 校舎は、耐震性に優れ、バリアフリーなどに配慮された構造になっているか | 3.1 | 3.6 | 定期検診を受け設備機能には問題はない。築25年を経過した校舎の老朽化が進んでいる。大規模修繕計画が必要な時期だが予算化の問題もあり計画は進んでいない。バリアフリー化はされていらないが、施設設備に不具合が生じたら早めに修繕し学生に不便をかけないようにしていく。 | 教材は教育目標に合わせ新しい教材を計画的に整備していく。校舎施設設備の老朽化では学生にも不便を強いているが、不具合を早めに修繕するなど対処したい。 |
| | 33 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており活用されているか | 4.1 | | 図書は年間予算で順調に新刊を購入している。PCは台数不足とWindowsのバージョンアップの課題があるので病院担当者と連携を取り、早期にリース契約ができるよう整えたい。2022年度新カリキュラムのICT教育導入を視野に入れ、WiFi環境の整備、LMSの活用など予算化を図り準備を進めたい。 | |
| | 34 学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられているか | 3.7 | | 現時点で開放できる部屋はすべて学生に開放し電気ポット、電子レンジ、冷蔵庫などの利用もできている。個室が少ないため講師接待、来客の対応、個別面談等は部屋の調整をしながら行っている。 | |
| VII 教員の育成 | 35 学生の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか | 3.9 | 3.8 | 参加した研修を活かしながら、現行カリキュラムの評価やカリキュラム改正に向けた取り組みを行うことができた。顕在的・潜在的カリキュラムの影響を課題として共通認識できた。職場内での企画研修は次年度は計画的に取り組んでいく。 | 教育目標の達成に向け、教員間で情報を共有し教育方針を確認しながら統一した指導に取り組んでいる。今後も研修を活かし、新しい知識を教育実践に取り入れていく。 |
| | 36 研修や出張で学会等に参加した成果を他の教員に還元する仕組みがあるか | 4.2 | | 職員教務会議での報告、伝達講習は実施している。カリキュラム改正に向けた様々な研修に各教員が参加し、研修内容を活かし活発な意見交換を行うことができていく。 | |
| | 37 教員が計画的に臨床看護研修会に参加しているか | 4.3 | | 教員の臨床研修は夏季休暇中に指導者と連携を取りながら実施している。BSC目標を意識し院内研修には積極的に参加している。領域の専門性に合わせ認定看護師の研修などにも参加している。 | |
| | 38 教員が計画的に研究調査活動を行っているか | 2.4 | | 共同研究者として県医療マネジメント学会にて発表した。その他、ラダー研究にエントリー中で今後活動を活発化していく予定である。 | |
| | 39 教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか | 4.0 | | 学内での授業参観は予定通り実施した。教員養成研修や短期学外研修への参加および受け入れ、学外の公開授業研究への参加等、学内外の授業参観の機会を通し、指導教員、参加教員共に高い学習効果があった。他校との交流は看護教員としての姿勢を学ぶ上で非常に重要であり今後も取り入れていく。 | |
| VIII 広報 | 40 ホームページは、適時に更新し、見やすくしているか | 3.6 | 3.4 | 定期的に行事の記事を更新しているが、学生満足度調査からの評価が低目なので、スマホ対応など活用しやすい対策を図る。在学生、受験生、保護者、地域住民へ必要な情報発信できるよう予算を獲得していく。また受験生への働きかけとしてHpの更新が重要である。 | HPIは見栄え、アクセスの利便性など質の向上が求められている。HP充実に向けて関係部署への理解を求めていく。評価の公表も地域に開かれ信頼される学校作りとして速やかに進める。 |
| | 41 学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に、何らかの方法で公表しているか | 3.2 | | 学校運営評価は年2回全教職員が実施し学校運営会議で審議したうえで講師会で公表し、運営改善に活用している。 | |
| IX 地域との連携 | 42 地域社会への貢献の一環として、学校施設を地元開放しているか | 3.6 | 3.8 | 備品等の貸し出しは地域の要請に応じている。学校祭での一般公開は学院で学ぶ学生を理解してもらう良い機会になっている。 | 施設の地域への開放は現在のところ需要が少ない。地域との連携は学生のボランティア活動で還元していく。ボランティア活動の充実へ向けては入学時から強化を図る。 |
| | 43 地域との協力関係が確立されているか | 4.1 | | 母体病院主催のイベントやボランティア、地域のボランティア活動に積極的に協力している。ボランティア参加人数は例年通りで、1人当たり年6回以上になっている。ボランティアに参加することは、地域の方々と接するよい機会であり、協力関係にも繋がっていくと考える。文化祭の一般公開来場者数は例年通りである。 | |